

3.28 中教審公聴会抗議行動全関西学生共闘の旗の下500決起 四月最終答申粉碎に向け果敢な三斗体制の構築を

一昨日、全関西の学生友五〇〇〇と固く連帯し
中教審「ハム護会」抗議に起つた。

全大の学友諸君、一昨日の三斗の報告をたい。一昨日、大阪市大、京大、阪大、神大
等全関西の各大学より結集した約千名の学友と伴に我々は、政府独占の敷いたレールの上
のつて凍らされた「公聴会」に対する抗議の三斗を最後まで貫徹し、多くの国民にこの三斗
の意義を訴えた。この「公聴会」抗議の三斗を総括する上にあって、まずその意義を再度
確認しておこう。オースに「一昨日、大阪・の地を南かれた「公聴会」の欺瞞性を大衆的にク
ロすることであり、それを政府独占による全大大学に対する帝国主義的再編策の一環とし
て敷かれたレールの上にあらかじめ定められたスワジュールを消化していくものであったと
いうこと、もちろん大学の矛盾を何ら解決させないものではないということを全大民に明
らかにすることであった。オースに、その三斗を通じて、四月中教審最終答申の持つ反动性
大衆の目的別格差を再編成、管理運営の独占掌握等——を明らかにする中で、これに対す
る三斗の意義を一層明確に打ち出すことであつた。第三に具体的には、そのための三斗を
担い切る覚悟と連帯の精神を大衆に訴へていくことなのであつた。我々が一貫して主張してきたように
一昨日教審特別委員会をはじめとした一連の政府独占の攻撃を粉碎する三斗は、民青諸君の
主張する如き、受動的、防衛的、な三斗ではなく、又旧全共三斗諸君の主張する如き、す
まの三斗の勝利を革命の彼岸に押しやる、白和見主義的な三斗でもなく、その三斗を勝利さ
せるには欠くべからざるものとしての、それと表裏一体のものとしてあるところの、民主的
改革三斗勝利のすぐれた攻撃的な三斗の性格を今一度確認してあかねばならぬ。

ニワラフス討議を直ちに準備せよ
目前に迫る三斗に、いかに取り組むべきか

全市大の学友諸君、1021、11月佐野米阻止と打ち続けた一連の三斗について我々学生
共闘は、すべての三斗学友に対して一貫して三斗の原則を指し示してきた。それは現在も又
有効であるし、今後も一貫して有効であるところの二つの原則である。それは、オースに、組
結された先鋒者部隊との連帯を実現することである。オースに、課題と基本戦術の一致に基
く様々な組織（自治会、三斗委、実行委、クラス等）の共同行動として展開することである。
これら原則を確立し、更に現代的に問われている課題に取り組まねばならぬ。

三、四月中教審最終答申粉碎三斗争を
全人民的課題へ中絶—安保—に結合
し、三斗を抜けよ

学生共闘は、一月において全軍勢支援の三斗を唯一学内で提起し、
その先頭に立ち三斗ってきた部隊である。そして、我々は大学—
安保—中絶の連帯性を最も明確に位置づけて三斗を構築してきた。
それは全市大の学友諸君の最もよく知るところであろう。二れう三斗
争の勝利の展望は、各戦線における三斗を末端から組織し、それら
を反独占的統一性のもと先鋒者階級を中心とする全人民的反撃
に結束させていく時にのみ開かれるのである。先鋒者は、既に70年春
三斗に決起している。我々も早急にクラス末端からの三斗体制を構築
しなければならぬ。クラス討議を展開し、4、5、6月の三斗を大
衆的な意志統一下、学園やエーストの最大限戦術をも追求しつつ三斗
を抜かねばならぬ。学友諸君、三斗の意志統一を——

平和と民主主義をめざす
学生共闘